

国防は最大の
福祉である
高橋季義

國の支之

(故中井信夫元大阪府議会議長・95才)

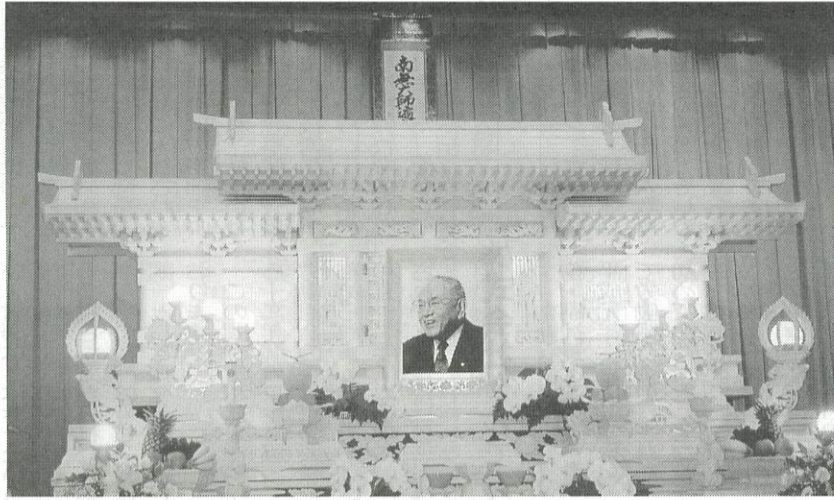
関西防衛を支える会
(略称・関防会)
〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心斎橋太陽ビル7階
TEL 06-6241-1124
発行人 濱野晃吉
編集人 新川貞敏
印刷所 (株)新聞印刷

第28号

(秋季号)

平成18年10月1日(日)
(皇紀2666年)
(大正紀元95年)
(昭和紀元81年)

國士・高橋季義会長逝く



去る八月四日、零時五十八分、小会の会長・高橋季義が永眠しました。享年八二歳。
血液のガンと言われる白血病に侵され再発・再々発しながらその都度、地獄の淵から生還してきたが、ついに帰らぬ人となりました。前日午前、お孫さんの差し出すアイスクリームの匙を「うまい、うまい」と二度三度つけながら破顔一笑して、突然にゴロっと横になつたまま昏睡状態に入った、と奥様の言葉です。拝見したそのお顔は、まさに微笑を含んでいて、大往生の様子だった。お通夜は十五日、葬儀は十六日・午前十一時から西宮山手会館で営まれた。お別れの会は(株)きんでん・主催で十月十一日、リーガロイヤルホテル(大阪中之島)で行われる。



抗ガン剤の投与は聞きしに勝る苦痛を伴つたものだ、と語っていたが少し回復すると講演を引き受け東奔西走しては「高貴なる日本の顕現」を訴えていた。その苦痛の克服は座禅による、と語り、病室でもベッドの上で座禅を組んだと聞く。そして老齢にもかかわらず驚異的な回復力に主治医「容赦なき 柩に注ぐ 夏の陽よ」 合掌

●故高橋季義会長略歴

大正一四年、愛媛県川之江町に十人兄弟の七男として生まれる。
昭和二十年、海軍兵学校一号生徒として終戦を迎え、卒業証明書を貰い帰郷する。
昭和二十四年、中央大学法学部卒業。
昭和二十五年、近畿電気工事(株)入社(現株式会社きんでん)。
昭和三十年、専務取締役。
平成元年、取締役社長。
平成七年、相談役。
平成一四年、特別顧問。

●その他の経歴

平成六年、関西経営者協会副会長
平成七年、(株)大阪府雇用開発協会会長
平成一一年、関西防衛を支える会会長
平成一二年、関西防衛協会理事
平成一三年、大阪貿易会会長
平成一三年、大阪府神社庁総代
平成一四年、(株)清交社常任理事

新会長に 濱野副会長選出される

八月二六日の臨時理事会に於いて濱野晃吉副会長(五九歳)が新会長に推薦された。九月二三日開催の臨時総会で濱野氏会長就任の承認を得た。濱野氏については次のような挿話がある。
平成一四年三月二日、高橋会長の病室に数名の者が呼ばれ、全員、薬品で手を洗い、うがいをし、マスクをして病室に入った。高橋会長は点滴の身で横になつたまま「私の命は永くても後三カ月だ、これは医者も後三カ月だ、これは国家の危機が言っている。国家の危機管理について何度も講演している身が関西防衛を支える会の次期会長を指名せずしては次は恥かしい。ついに私に任せ後は濱野晃吉を会長に据えて継続して関防会を運営し、より良い日本建設の為に活動するよう頼む」と。言わば、濱野

高橋季義会長の「お別れの会」ご案内

謹告 去る8月14日に高橋季義会長が、逝去されました。つきましては、高橋会長の「お別れの会」が(株)きんでんの主催で左記のとおり執り行われることになりました。皆様におかれましては、ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせの上ご参列の程お願い申し上げます。

記

一、日時 十月十一日(水)
午前十一時三十分午後一時

二、場所 リーガロイヤルホテル
三階「ロイヤルホール」

大阪市北区中之島五丁目三番六十八号

誠に勝手ながら、香典・供花・供物の儀は固く、辞退申し上げます。随時献花をしていただきますので都合のよいお時間に平服にてお越し下さいますようお願い申し上げます。
平成十八年九月十二日

大阪市北区本庄東二丁目三番四十一号
株式会社 きん でん
取締役会長 宮本 一
取締役社長 中谷 修 己
喪 主 高橋 佳奈子

高橋季義追悼文寄稿のお願い

去る、8月14日、0時58分、小会の会長・高橋季義が永眠致しました。皆様方、御承知のように高橋は國士であり、教育者であり、宗教家でした。死の直前まで、憂國の熱情を露呈させていました。年齢から言えば潤れてもよい筈でした。血液のガンと云われる白血病が再三再発し、その都度生還してきて我々を驚嘆させ、かつ勇気づけてくれました。その経済活動から本来ならば叙勲の対象になるはずですが、位階には眼もくれず國家のあるべき姿を死の直前まで訴え続け、諫言して参りました。つきましては、國士・高橋への想い出などを左記へ御送付賜りたくお願い申し上げます。

記

*募集内容 追悼文・短歌・俳句・川柳・写真・など原稿用紙2枚前後。
(論文形式の場合は制限なし・写真の場合は要説明文添付)

*締め切り 11月30日(来春A4判で発行予定)

*原稿送付先 〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心斎橋太陽ビル7階 電話 06-6241-1124

*原稿送付先 〒542-0081
大阪市中央区南船場3-11-10
心斎橋太陽ビル7階 電話 06-6241-1124

本日、ここに故高橋季義特別顧問の葬儀を執り行うにあたり、ご生前の慈愛に満ちたご遺影を前にして謹んで哀悼の辞を申し上げます。

もあなたは一切取り乱さずとなく自分の運命として受け止められ弱音一つ吐くことなく明るく笑顔で「日々是好日」の境地でおられました。

高橋さん、あなたは本当に凄なお方だと、今更ながら敬服いたしております。

この難病からの復活で導かれた「感謝・祈り・友情」の心のお話は諸団体から依頼を受けた講話で多くの方々に感銘を与えたと受け賜っております。しかし、皆の願いも虚しく幽明境を異にされ

弔辞

株式会社きんでん 社長 中谷 修巳

「事業は人なり」という強い信念の元、心・技・体の三位一体からなる全人教育を施し技能の錬磨、そして技術の向上に全身全霊をさ

「事業は人なり」という強い信念の元、心・技・体の三位一体からなる全人教育を施し技能の錬磨、そして技術の向上に全身全霊をさ

「事業は人なり」という強い信念の元、心・技・体の三位一体からなる全人教育を施し技能の錬磨、そして技術の向上に全身全霊をさ

「事業は人なり」という強い信念の元、心・技・体の三位一体からなる全人教育を施し技能の錬磨、そして技術の向上に全身全霊をさ

これは間違いなく海軍兵学校仕込みの「不屈の精神力」と座禅を通じて「安心立命」の境地に達しておられたからでありましょう。

省みますと高橋さんは大正十四年に愛媛県川之江市で生をうけられ昭和二十年

省みますと高橋さんは大正十四年に愛媛県川之江市で生をうけられ昭和二十年

省みますと高橋さんは大正十四年に愛媛県川之江市で生をうけられ昭和二十年

高橋季義兄を偲んで

阪急電鉄株 名誉顧問 小林 公平(小会)

高橋季義兄と私は海軍兵学校第七五期の同期であ

それは単に同期生だからというだけではなしに、彼の人なり、即ち正義感に溢れ、直情径行、国を想うこと特に深切で、加えて人情味豊かであったからであらう。

それは単に同期生だからというだけではなしに、彼の人なり、即ち正義感に溢れ、直情径行、国を想うこと特に深切で、加えて人情味豊かであったからであらう。

それは単に同期生だからというだけではなしに、彼の人なり、即ち正義感に溢れ、直情径行、国を想うこと特に深切で、加えて人情味豊かであったからであらう。

彼と私は残念ながら海軍兵学校時代には全く顔を合わせたことがなかった。

彼と私は残念ながら海軍兵学校時代には全く顔を合わせたことがなかった。

彼と私は残念ながら海軍兵学校時代には全く顔を合わせたことがなかった。

彼と私は残念ながら海軍兵学校時代には全く顔を合わせたことがなかった。



参列者に謝辞を述べる御長男の高橋忠義海将補と喪主の佳奈子夫人

弔電

(喪主・佳奈子夫人宛) 内閣総理大臣 小泉純一郎

「高橋先生の御逝去の報に接し生前の御功績をたえ御冥福を御祈り申し上げます」

海軍兵学校七二期 元統幕議長 矢田次夫 「ご主人様の逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。故人は我が国の防衛に関し広く国民を啓蒙し特に関西地区で貢献を賜り、ここに深謝申し上げますとともに、衷心よりご冥福をお祈りいたします」

海軍兵学校七五期 関西代表幹事 (株)ノリツ会長 太田敏郎 「ご主人様の逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。顧みますと高橋君は私事は一切忘れて、ひたすら公共のために尽くした一生であったと思っております。期友一同、心からご冥福をお祈り申し上げます」

江田島最後の第七〇六分隊一同 「ご主人様大往生の報に接し、改めてその存在の大きさと痛恨の思いを深くしております。国を愛い人を愛する高い志と誠は、縁あった全ての者の胸にいつまでも生き続けるであります。ここに分隊総員心を込めて敬礼を捧げます」

海上幕僚長 吉川栄治 「ご主人様の御逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心から御冥福をお祈りいたします」

陸上自衛隊中部方面總監 陸将 折木良一 「ご主人様の御逝去の報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。ご生前に賜りました御厚情に深く感謝申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします」

自衛艦隊司令官 道家一成 「ご主人様の逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします」

環境大臣・沖繩・北方担当 衆議院議員 小池百合子 「ご逝去を悼み謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします」

兵庫県知事 井戸敏三 「ご主人様の御逝去の報に接し 心からお悔やみ申し上げます。謹んで御霊の御冥福をお祈り申し上げます」

新会長就任の決意

会長 瀨野晃吉

高橋季義会長がご逝去され残念至極です。高橋会長の最後は、戦後日本の建直しに於ける壮烈な戦死でありました。ご家族に囲まれ笑顔で逝かれたと伺い安堵致しました。

この度、高橋会長の意向もあり、理事会、総会で支持、承認を頂き会長に就任することとなりました。浅学非才で若輩者ではあります。高橋会長の想い・精神・大和魂を引き継いで頑張りたいと心を新たにしております。

会長と初めてお会いしたのは、関西経営者協会に勤務していた頃であり、

高橋会長の遺志を継いで行く

独立して会社を設立し、

の句を津村副会長に手渡された。我々はその受け

高橋会長の計報を知ったのは、おもしろお盆の墓参りの為、郷里の広島に帰省していた八月一日、友人の新川氏からの電話でした。

以前、大病を患われたときは大変心配しておりましたが、高橋さん持ち前の海軍魂で奇跡的に回復された聞きことも喜んでおりました。

高橋さんとの出会いは現役・退職後を通じて、二、三回ぐらいいくつありますが、そのついで「海軍兵学校 名物教官 平賀教授の息子」と皆さんに紹介していただき、大変恐縮した思い出があります。

高橋会長追悼 3〜5面

海兵の名物教授

元潜水艦隊司令官 平賀 源太郎(防大七期生)

高橋さんとの出会いは現役・退職後を通じて、二、三回ぐらいいくつありますが、そのついで「海軍兵学校 名物教官 平賀教授の息子」と皆さんに紹介していただき、大変恐縮した思い出があります。

高橋さんとの出会いは現役・退職後を通じて、二、三回ぐらいいくつありますが、そのついで「海軍兵学校 名物教官 平賀教授の息子」と皆さんに紹介していただき、大変恐縮した思い出があります。

高橋さんとの出会いは現役・退職後を通じて、二、三回ぐらいいくつありますが、そのついで「海軍兵学校 名物教官 平賀教授の息子」と皆さんに紹介していただき、大変恐縮した思い出があります。

高橋会長に感謝

相談役 芝田 武治(陸士四五期)

高橋会長のご逝去の報に接し謹んでお悔やみ申し上げます。生前に受けました人生行路の尊く意義ある御指導に感謝申し上げます。御冥福をお祈り申し上げます。

会長の教えに一首

常任理事 赤坂 昇三

素乱の世を直さんと その日まで 獅子は吼えたり 遙かを睨みて

共に伊勢神宮の遷宮を

大阪府連合会会長 吉村 鉄雄
元大阪府議会議員

すばらしい見識の高橋先生の逝去にあたり謹んで哀悼の一文を捧げます。

その後、三年前に大阪府神社庁の総代役員に高橋氏と共に推薦を受けました。大阪府神社庁総長の大阪天満宮・寺井宮司より改めて紹介を賜り、平成二十五年に予定される伊勢大神宮の遷宮式典に共に大阪府代表として、高橋氏と共に御奉仕させて頂くことになりました。

高橋さんの意志の継承

衆議院議員 大前 繁雄

私が高橋さんと最初にお会いしたのは、昭和五十四年の初めであった。突然、兵庫県議員選挙に出馬することになり、支援労組の関西電力労働組合の方からご紹介を頂いたのである。

「お人には絶対お願いに行こうかなあかんぞ」という言葉でお訪ねしたのが、西宮市今津にあった近電の教育訓練校。その校長をして高橋さんに初めてお目にかかったのであるが、労組の方に紹介して頂くにはいざさか霧囲気の異なる、国士的というか軍隊的というか、大変印象に残る方であった。

坂田 藤十郎(人間国宝)

「ご主人様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。在りし日のご主人様のお姿を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。」

高砂熱学工業株式会社社長 石井 勝

「最愛の友の訃報を聞き、深い悲しみに襲われています。仕事を愛し、家族や友を愛し、何事にもひたむきだった彼。ご遺族の皆様のご心中を察しもうしあげ、心からご冥福をお祈りいたします。」

衆議院議員 福田朋美

「ご主人様のご逝去をいたみ謹んでお悔やみ申し上げます。心からご冥福をお祈り致します。」

中央大学評議員会議長 久野修慈

「ご主人様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。故人が前評議員会議長として、中央大学発展のためにご貢献されたことに対し、心から敬意を表します。」

兵庫県議会議長 長田 執

「ご主人様のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表し、お祈り申し上げます。」

西宮市長 山田 知

「ご主人様のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げます。心からご冥福をお祈り申し上げます。」

兵庫県議会議員 筒井信雄

「わが国の現状と将来を憂い、常に無私無心の心で精力的に活動され続けた生き様は誰にも真似が出来るものではありません。そんな高橋会長は、私の精神的な支柱そのものでした。悲しみはいつまでもつきませんが、これまでいただいた数々の御指導をしっかりと胸に刻みつけ、会長が想い描かれていた日本を作るべく、志を貫徹することを誓います。どうか、安らかにお休み下さい。」

会長を偲びて一首

会員 高崎 啓靖(陸士五六期)

憂国の 至誠溢れる 益荒男は 季にわたって 義心かんばし *お名前をどって、拙歌一首を捧げてご冥福をお祈り申し上げます。

素敵なお心遣い

沖繩・北方担当国務大臣 高市 早苗

高橋義典さんの逝去を悼み、高橋さんを敬愛してやまない多くの皆様とともに、心から哀悼をお祈り申し上げます。

株式会社きんでの経営や大阪貿易会会長としての活躍を通じて日本経済に多大な貢献をされ、さらに、西防衛を支える会長として日本の国柄を守る尊い活動に尽力されました高橋さんに、改めて感謝の思いを捧げます。

私も、様々な節目に温かい応援のお言葉や適切なご助言を賜り、高橋さんの素敵なお心遣いに救われてきた一人です。

特に、通産政務次官や経済産業副大臣を務めておりました際には、通産政策や景気対策についての率直なアドバイスを沢山いただきました。

その後、衆議院四期目を目前に落選してしまいました折りにも、失意の私を励ます夕食会を催して下さいました。そんな時も変わらずメールを送って下さいました高橋さんの優しさは、生涯忘れられない宝物です。

昨秋の総選挙で復帰しました国政の場では、憲法教育基本法の改正を始め防衛庁の官制格など、国づくりの根幹に関わる議論が本格化しつつあります。まだまだ多くを学ばせていただきました折りのご訃報に、切なく残念な気持ちで一杯ですが、今はただ、高橋さんの志を大切に受け継ぎ、持てる力を尽くして「真の主権国家」の形を創ってまいりたいと覚悟を新たにしております。

人生の師 元学園長 山根 穰 (元きんでん 学園長)

小倉総務部長

高橋会長と私の出会いは、昭和二十九年春、近畿電気工事株式会社(現・きんでん)の技術員養成所入所式でありました。

昭和三十九年春、近畿電気工事株式会社(現・きんでん)の技術員養成所入所式でありました。

高橋会長と私の出会いは、昭和二十九年春、近畿電気工事株式会社(現・きんでん)の技術員養成所入所式でありました。

益荒男の本懐

議院議員 西村 真悟

奮闘下さり、我が国の歴史・伝統継承の大切さを力強く訴えて下さいました。逝去の一カ月後に、秋篠宮悠仁親王様が無事に誕生された巡り合わせは、まさに高橋さんの命を賭けた愛国の思いが通じたものと感じられてなりません。

我が師

副会長 吉村 伊平

の者である。防衛政務次官の時の所謂核武装発言やこの度の弁護士法違反に陥った事態においては、ほとんどのマスコミは私を非難した。その中において、会長は私を励まして下さった。七月十九日の神戸の情報判断学会には、「真悟は、自分で言わんやろ、俺が言う」と車椅子で奥様とともに出席して下さいました。心にしみて生涯忘れられることはない。



右の衣姿が高橋会長・参拝者を指導中

高橋会長に学ぶ

第二六代海上幕僚長 古庄 幸一

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

高橋会長も喜んでおられた事であり、安心なさっておられるでしょう。会長のご逝去も「いつか？」と予期されながら現実その知らせを受けると、息を呑んで絶句。実に悲しさが込み上げるものでした。

國士・高橋会長の意志、永遠に

御魂よ安らかに

桃山御陵参拝を思う

会員 三宅 道雄

高橋会長と私は、共に中央大学昭和二十四年卒業で、私
が関防会に入会したのも同期という縁からでした。終
戦直後の昭和二十一年入学当時、東京は食糧難と住宅難
のため転入制限があり、旧円預金は封鎖されていたま
た。そういう時代の入学・卒業ですから会長とは自然に
特別な親近感があります。

桃山御陵と舟唄

常任理事 飯田 美智子

中央大学同窓会では、一時期大阪支部長として、また
中大評議員として東京にも度々出張され、母校の為活躍
されました。平成十一年秋の岡山支部との合同懇親ゴ
ルフ大会(於・御津CC)にも懇々参加されました。ゴ
ルフ不況の最中、神有CCの理事長もなされておられまし
た。戦時艦艇喪失史(元就出版社)にも「推薦のこと
ば」を書いておられます。大阪護国神社へは、春秋の
例大祭、桜の季節の「同期の桜を歌う会」にも関防会の
役員の方々と一緒に、積極的にご参列されていまし
た。一昨年、日露開戦百周年行事として、桃山御陵と乃
木神社参拝の記念写真のお元氣なお姿を拝見して在りし
日を偲んでおります。最近の車椅子のご生活でも、不
屈の闘志で明るく前向きに過ごされているご様子に安心

してました。会長は開巻五段という事を最近知り、一
局お手合わせをお願いしようと考えていましたが、それ
も適わぬ夢となりました。

会長のご逝去は私には名譽の戦死と思えてなりませ
ん。色々とお世話になり、厚く御礼申し上げます。海上
自衛隊で御活躍の御息を始め、ご遺族の皆様方のご健
勝を祈念申し上げますと共に、会長のご冥福を心から
お祈り申し上げます。

あれは、一昨年の五月のことでした。明治天皇の御陵
にお参りしよう、と言う話が理事会で出て、希望者二十
数名で参拝しましたが、会長は「恥ずかしながら、俺は
この年になって桃山御陵に未だお参りしてないんだ」と
おっしゃいました。明治天皇・皇后の陵(みささぎ)に
お参りし昼食の後、時間もあるのでカラオケに行こう、
と話が決まり京阪間目撃近頃の私の良知識知っているスナ
ックに電話して店を開けてもらいました。

御霊安らかに

大阪護国神社司 柳澤忠磨

高橋会長の遺訓を實踐し会長に安らかに眠って貰いた
い、と念じている昨今である。

遺訓の実践

常任理事 森 實

高橋会長が、八月に亡くなられた。巨星墜つ！の感じ
で日本にとって惜しい人を失った。私自身、思えば十年
足らずの日々、薫陶を受けたのであった。

一、会名を「関西防衛を支える会」に変更。これは政
治的自由を保つ為。
二、理事会を隔月に開催し、各理事の意識の改革と浸
透を図る。
三、機関紙「國の支え」を季刊で発行する。

若い君に期待する

西宮市議会議員 田中 正剛

私が高橋会長と初めてお会いしたのは、兵庫県議会の
簡井のぶお議員(当時は西宮市議会議員)の事務所のス
タッフとして勤務して間もないころで、今から七年前の
ことでした。当時の私は、大学を卒業して間もなく、社
会の右も左も分かっていない状況で、高橋会長を目の前
にして、圧倒されるばかりで緊張のあまり会話も覚えな
い状況であったことを記憶しています。その後、お忙し
い中後援会のイベントを開催するたびに足を運んで下さ
り、熱血漢あふれるご挨拶を聞かせて頂いた後に、若輩
の私に対しても、暖かく励まし言葉を数多く頂くなど、
周囲の人間にも細かくお遣い下さり感動したもので
す。そうした積み重ねが多くの人をひきつけ、あふれ
る徳につながっているのだと感じ、私も年を重ねるご
とにそうすることが出来る人間になりたいと現在も努力
している次第です。そうした縁をきっかけに、私も当
会に入会させて頂くことになりました。

獅子吼する会長

事務局長 前田 稔

高橋会長が逝かれた。御本人も自覚があり、我々も再
三の難病からの生還を見ていたので時間の問題との認識
はあった。

新会長を支えて、次代へ誓う

相談役 中島 元

会長 高橋義義氏が急逝された。
氏は類いまれな識見・胆力、一片の私心もない高邁な
人格、そして豪放磊落。
生来の美質をさらに海軍兵学校で磨き上げられ、生涯
を「大義に生きる」をもって貫き通された快男児であ
られた。

しかしながら氏は、平成一四年の春、憎むべき病魔に
冒され、余命いくばくもないと宣告されるや「よし、こ
のまま倒れてなるものか」とばかりに、不屈の精神力
と、驚異的な自己規制により尚、四年の歳月を病魔から
戦いとられ、「倒れて後己む」「この國を滅ぼしてなるも
のか、日本国、日本人よ、いまこそ世界の進歩発展の原
動力たることを自覚せよ」と病苦を押し、まさに生命を
賭して日本精神の作興と後輩の育成に全力を傾注され
たのである。そしてついに天命いたるや「これよし」と
まさに莞爾として大往生を遂げられたのであった。

その訃報に接したとき私は、手帳に納められている会長の
署名入りの写真を取り出し、かねて唱えておられた至言
「国防は最大の福祉である」の言葉を書き加え、次代を
担う新しい会長の下、みんなを一つにしてこの目標を
達成するべく努力を傾けますとお誓いして懐深く収めな
おしたのである。

私では元氣でいて貰ねば困りますよ、と若干の比喩
を込めて申し上げたのだが、約束を違えて不帰の客と
なってしまう。来春三月、兵庫県立芸術文化ホール
での開催は高橋会長の追悼音楽祭としたいと、決意して
いる次第です。会長ごうか安らかに眠り下され、会長
の意志を継いで頑張る事をここに誓い申し上げます。
合掌



右端中腰が三宅氏、会長の右後の帽子姿が飯田さん

桃山御陵参拝(前列中央の帽子姿が高橋会長)

*九月八日から十日にかけて、小会では鹿屋・知寛へ鎮魂慰霊の旅を催した。為に隠れたる昭和史研究家の奥村氏に特攻隊の論考を依頼して巻頭論文として掲載予定であったが高橋会長物故により六面に変更した。文中の写真はその道中のものである。

尚、奥村氏は戦後、帝国海軍の潜水艦の権威・福田少将のスタッフの一員となりその薫陶を受け、戦史研究は氏のライフワークでもある。

特別攻撃隊を憶う

昭和史研究家 奥村 直

一、特別攻撃隊の誕生
昭和十六年十二月八日、大本営海軍部はハワイ海戦戦果の詳報を発表したが、その発表文中に(五)として、併せて次のような公表をした。

「同海戦に於いて特殊潜航艇をもって編成せる我が特別攻撃隊は、警戒厳重を極むる真珠湾内に決死突入し、味方航空部隊の猛攻と同時に敵主力を強襲、或ひは単独夜襲を遂行し、少なくとも前記戦艦アリゾナ型二隻を轟沈したる外、大なる戦果を挙げ敵艦隊を震撼せり」特別攻撃隊という名称が日本国民に示されたのはこれが嚆矢であった。

その後、オーストラリアを、あるいはマダガスカル島を奇襲した特殊潜航艇による第二次特別攻撃隊の発表があったが、組織的・肉弾必殺の「特攻」はそれをもって終わったかに見えた。しかし、戦局悪化して、それまで豪北を北上しつつあったいわゆるマッカーサー攻勢と、内南洋を西進しつつけるニミッツ攻勢が一斉に比島に焦点を合わせた昭和十九年十月、日本国民は再び「特別攻撃隊」の出撃を知られたのであった。

戦史に名高い神風特別攻撃隊である。

筆者は昭和十九年十月二十八日付で海軍省から発表された、神風特別攻撃隊敷島隊宛の豊田連合艦隊司令長官による全軍布告の感状を新聞紙上で読んだときの異常な感動と興奮を今も忘れることができない。(こまごまだかというのが包み隠せない気持ちであった)

「体当たり部隊」神風特別攻撃隊の構想は猪口大佐・中島中佐共著『神風特別攻撃隊』によれば、第一航空艦隊長官に親補された大西中将が、比島の戦場に着任途上の発想によると推論されているが、美松讓大佐の説では、既に東京出発の際及川軍令部総長の内諾を得ていたという。その前年の昭和十八年には、侍從武官から空母母代田艦長に転じた城英一郎大佐が大西中将に「体当たり航空部隊」の構想を具申している。

いいましてね。あの日は豪雨で、関は薄暗いロソクの下で、じっと考え込んでいました(『歴史と人物』誌昭和五十九年十二月刊) 因みに関は早く父を失い母子一人の境遇だった。

事実は何れか。しかしこの時の関大尉の心情を憶うと、あれこれ測測するのは非礼の極みといえよう。我々に許されるのは関大尉が零戦五機よりなる敷島隊を率いて四回も出撃し、五回目に漸く敵艦隊に遭遇できたこと、そして特別攻撃隊としては空前絶後の偉功を挙げたと銘記することだけである。

更に付言するならば、関大尉の出撃前に報道班員が聞いたと伝えられる言葉「僕なら体当たりしなくても五十番(五百キロ爆弾)を命中させて見せる」僕は天皇陛下のために行くんじゃないか(妻のために行くんだ)を、今更言い立ててみてそれが何になるであろう。我々は死者に対する畏れと敬意を忘れた国民にはなりたくないと思う。

ここで敷島隊の戦果について改めて確認しよう。出撃五機、その二機が空母カリニンベイに命中撃破、更に一機は空母キトカンベイに命中突上、そして被弾した一機は空母セントローに命中撃沈。僅か五機の編隊が空母一隻撃沈二隻撃破という戦果を挙げたのは空前であるが、同時に絶後でもあった。この敷島隊の奮戦が大西中将を始めとする体当たり攻撃論者の主張に絶大なる裏付けを与えることになる。大西中将は二航艦長・福留中将に「航空同様特攻を迫るのだが、絶対に同意しなかつた福留長官があえてその主張を翻えざるを得なかつたのは敷島隊の大戦果を突きつけられたからであった。

そして海軍特別攻撃隊の大戦果に触発された陸軍航空部隊も、九九式軽爆撃機編成された万葉隊、四式重爆撃機編成された富岳隊の二隊の特別攻撃隊を比島の戦場に送り込んだ。海軍の特別攻撃隊が「一括して「神風特別攻撃隊」と呼ばれたのに対応して、陸軍のそれが統一して第〇〇(数字)振武隊と呼ばれるのはずっと後である。因みに振武隊は三百余隊編成されているが、この頃は単に陸軍特別攻撃隊と呼ばれていた。

これらから推察を切ったように特別攻撃隊が陸軍と出撃しつづける。

三、特別攻撃隊の評価
昭和十九年十月二十一日午後四時二十五分、久納中尉の指揮する大和隊が比島セブ基地を出撃、レイテ島の敵艦隊に突入してから、昭和二十年八月十五日の終戦まで、神風特別攻撃隊員として散った将兵は二千五百二十名に達した。彼等が戦果は比島、沖繩等の戦場で空母以下の撃沈五十七隻、空母を含む大破百八隻、戦艦以下の撃破三百五隻と伝えられる。単純に計算すれば約四千の特攻隊員が四百七十の敵艦を撃破したことになる。

艦船一隻を屠るのに特攻隊員九名足らずでやったという計算が成り立つ。実によく戦った記録を日本人は忘れてはならない。

昭和天皇は特別攻撃隊の報告を受けられるときは、恭しく最敬礼されるのが常であったという。その陛下が初めて特別攻撃隊の戦果奏上を受けられたとき、及川軍令部総長に賜ったお言葉は、猪口・中島共著の『神風特別攻撃隊』には次のように記されている。

「そのようにまでせねばならなかつたのか。しかしよくやった。以後の諸著作も概ねこれを踏襲している。しかし「竹槍事件」で有名な新名丈夫記者はこんな「お言葉」も伝えている。こちらは米内海相に下されたお言葉とされている。(秘録大東亜戦史「神風」)「かくまでやらせねばならぬ」といふことは、まことに遺憾である。しかしながら、よくやった。大西中将は「お言葉」の中の「まことに遺憾」を拜して恐れ入ってしまったと伝えられる。何れが「正史」か判断し難いが、さまざまな著書が軍令部総長に賜った「お言葉」のみを挙げているのに、新名記者は大臣と総長に賜った、として二通りの「お言葉」を記しているのが注目される。



あるまい。それにしても、戦後得々として往時の瑕疵をあげつらう輩のなんと多かったことか。

終戦の翌々年早々『混沌の記』という回想記が雑誌に掲載された。その筆者によれば「中」ころ幹部の言行録、及びその不手際な編集だ、ということであったが、内容は比島や九州の基地における特攻隊の自棄的な姿の描写であった。それは未だ良い。筆者が絶対に許せないのはその僅か数カ月前に同じ人物が少年向けの雑誌『海軍』に「神風特別攻撃隊の出撃を見送る一困難を救う若き力」という一文を寄稿していたことである。この変わり身の早さ。そして幾許かの稿料を得る厚顔。その執筆者は海軍司政官三増英夫氏である。

四、特別攻撃隊と自爆テロ
終戦直後、おそろしくは九月頃、遠藤三郎中将と小沢治三郎中将が米軍士官たちのインタビューを受けたという新聞記事を読んだ記憶がある。遠藤中将はカミカゼについて執拗に質問を受けたりしく、士官たちはカミカゼ即ち自殺機と頭から決めつけていて、遠藤中将が「命令で行つたのだから自殺ではない」と説明しても彼らは理解出来なく「どうしても我が崇高な特攻精神が理解できないのであった」と語っていた記事だった。

「命令で行つたのだから自殺ではない」とこの説明は実はおかしい。特別攻撃隊員は命令ではなく志願である、というのが厳然たる建前だからである。この矛盾を解決するのはただひとつ、「特攻とは命中率向上のための手段である」という説明だけである。

戦争の後半、我が航空隊の威力が歴然と低下していたのは搭乗員の練度低下だけでなく、敵の対空砲火の精度が我が軍のそれとは桁違いに正確で、我が機が射点に到達する前に被弾撃墜される率が飛躍的に高くなっていた

からである。

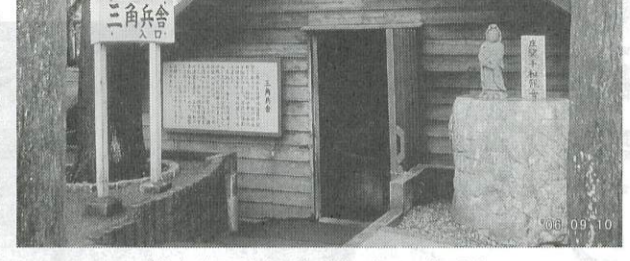
戦前から高角砲の対空射撃は時限信管と高爆榴弾による弾幕であった。昭和十八年十月公開された日本ニューズ百七十七号を覗かれた方は空母ホーネットの上空に張り巡らされた弾幕の凄さを記憶しておられよう。この「弾幕」の精度を圧倒的に向上強化したのが、目標の十五米以内近づいたら必ず作動するいわゆる近接信管、VT信管の発明であった。マリアナ沖海戦の敗因はここにあったとされている。

この苦境を打開するために日本は、爆弾を抱いて体当たりする方法を採用した。頻りに奮起した将兵の発意であったが、その象徴的存在となったのは大西中将であった。彼は猪口大佐にこう言ったという。「こんな数の機材や搭乗員の技量では戦闘をやっても、この若い人々は徒に敵の餌食になってしまうばかりだ。部下をして死処を得さしめるのは、主将として大事なことだ。自分はいくら(体当たりを命じる)が大愛であると信ずる」。

また源田大佐には、これは慈悲だという意味のことを語ったという。通常の攻撃でむさびやられるよりは敵を必殺し得る、特攻を命じる方が人のためというところでもあろうか。しかしこの論理は率直には納得し難い。結局は命中率を上げる発想だからである。だがそこに置かれたのは自己犠牲という究極の戦士の姿であった。関大尉、植村少尉、西尾少佐を始め、神風隊、振武隊、神潮隊、震洋隊、震天隊等数十の自己犠牲の姿であった。それは圧倒的物量で迫ってくる敵の正規軍と対峙するからと、そして国際法規を遵守する堂々たる戦闘行為だからとを光輝に包まれるのである。無辜の民衆を盾に取り、何の関わりもない子どもたちを道連れにして死ぬ自爆テロとは根本的に違つたのだ。

一昨年の四月、某地方紙に当時慶応大学客員教授だった故小此木氏がこんなことを書いていた。「自爆テロの元祖は我々日本人の特攻攻撃だった云々」。筆者は小此木氏あまりの無知に驚いた。そして平然とこのような駄文を発表する無恥に呆れた。テロとは何か、この人物は日本語を改めて勉強すべし、と某誌に書いたの思い出す。今の日本の「識者」とはどの程度の連中なのか、それとも何らかの意図があつたのかと改めて感じたものである。自爆テロと比較できるのは、悪名高い中国便衣隊であらう。

五、伝説その一 敵前逃亡
当時の連合艦隊航空参謀・淵田美津雄大佐は、戦後次のように語っている。
「当初の特攻隊員はさすがに出発直前でも、意気軒昂



特攻隊員が生活した知覧の三角兵舎

座に「いや、富永はそんな男じゃない」という返事が返つてきたという。岡村誠之次佐のこんな証言がある。「(富永中将の比島逃亡について) 当時の真相を知らぬ私として差出口を慎まねばならぬけれども、ただ同氏については、二、二六事件の起こった朝、大部分の参謀や省員達が軍人会館に行つた時、参謀本部庶務課の高級部員として、反乱軍重團の中に敢然としてその職場を守り通した人であることだけを付記しておく」(「陸軍・勇将列伝」)。
現在筆者の知る富永中将護衛論はこの二つしかない。そこで筆者は時系列に沿つて昭和二十年一月、比島からの陸海軍航空司令部撤退について記してみた。
昭和二十年一月四日、海軍第二航空艦隊長官・福留中将は水上機で比島に向け比島撤退。一月十日未明、第一航空艦隊長官・大西中将率領の艦隊が比島を離れ、第一

大佐は戦後の昭和三十一年、当時を回想して「その九日の夜、第一航空艦隊の首脳部が思い立ったように、あわてて台湾へ去つていった。前線部隊の大部分はこんなことが起こつていないとほざげん知らず、飛行場で全員玉砕だ」と勢いこんでいたのであった」と記している。言外に司令部・長官に対する怒りと不信が感じられる。
一月十七日に富永中将撤退。富永中将の撤退が一番最後である事実に注目されたい。しかも中将は以前からテング熱に罹患していた。昭和三十年、富永中将が十年に及ぶペリア抑留から帰還した時、余りの批判に思い余つた令嬢が、当時父は重病だった、と新聞に投書されたほどだった。精根尽き果てた中将は十二月三十日付で寺内総司令官宛に「病躯その任に耐えず」と辞意を表明していた。これは何故その辞意は認められなかったのか。あえて推論を述べると、南方総軍や第十四方面軍の中に東條陸相のもとで次官(異例の抜擢であった)として権勢を誇つた富永中将に対する反感、怒りが意識下にあつたのでは？富永中将が杉山陸相によって次官の職を解かれ、第四航空軍司令部に転出となつたのは、明らかな厄介払いであったことを緒方竹虎氏は記している。当然受け入れ側にもある感情が働いていたのではなからうか。
富永司令官の敵前逃亡説には、より冷静な状況分析が不可欠であらう。伝説を信ずるのは賢明ではあるまい。



鹿屋航空基地史料館

六、伝説その二 片道燃料
鶴田浩二が好んで歌つた小唄「白頭山節」にこんな歌がある。
燃料片道涙で積んで 行くは沖繩死出の旅 テンツルン
特別攻撃隊は片道分の燃料しか与えられなかったという「伝説」は今や史実となつてしまつた。戦時中から一部ではそのように信じられていたらしく、大井篤大佐の著作「海上護衛戦」に、海軍省軍需局員から戦艦大和出撃のため海上護衛隊への重油割当てを七千トンから三千トンに削減するとう電話が入つて「しかし、えらいことになったな。大和は特攻だつてよ。片道だけの燃料しかもって行かないぞよ」。

「有名な吉田満「戦艦大和の最後」の一節である。しかし、第一艦隊十隻はこの時約一万トンの重油補給を受けている。
因に大和は燃料を満載(六千三百トンス)すれば十八節の速力で七千百哩を優に走破できる。三田尻沖から沖繩本島までの往復は千数百哩であり、たとえ燃料が半分しか無いにしても往復は可能だ。
では航空機の場合はどうか？
熊本、宮崎等の基地から沖繩本島までは直線距離でも往復千四百km以上はある。敵の攻撃をかわしつつ索敵攻撃を行うとすれば、必要な燃料は更にぐんと長くなる。航続力の短い単発機では中継基地が無くては困難な戦場なのではない。本来が三十キロ爆弾を搭載して航続力二千四百kmの零戦に二百五十キロ爆弾を持たせるのである。運動性は減少し、対地速度は落ちる。往復攻撃は容易ではなからう。まして足の短い陸軍機、よく使われた九九軍偵などは航続力千五百kmしかない。九州の基地から沖繩慶良間泊地への往復攻撃は困難であらう。片道分の燃料を送り出さなくとも、沖繩本島へは単発機に大型爆弾を積んで出撃したとき、帰投するのは困難な戦場だ、と言つても過言ではあるまい。

燃料を片道分に絞らずとも、機種によっては帰還は困難な作戦、つまり片道攻撃だった、と見るのが正しくはないか。「片道燃料」説を、ある目的のために流布する輩である。
七、特攻と玉砕
最近、硫黄島の戦闘が注目を浴びている。但しその扱いは、降伏すら許されず、補給も打ち切られた孤島で死を強要された将兵、という自虐史観で共通している。降伏とはどういふことか。重傷を負うなどの理由なくして味方陣営から個人的に敵陣に走れば、それは敵前逃亡罪であり極刑が待っている。また指揮官が尽すべきを尽さず部下と共に降伏すれば軍法会議が待っている。旅順戦のステセル司令官が好例であらう。パタン戦の米軍の如く敵の糧秣を食い潰す程の大量で降伏するのとも一法であらうが、軍人としては唾棄すべき行為であらう。戦後間もなく刊行された高津正通著「ソ連の勝因とドイツの敗因」には、東部戦線で独軍重團の中を従容として全滅してゆく連軍の姿が称揚されている。玉砕は日本軍のみの「非人道的慣行」ではない。それにしても左翼の人にとってはソ連の「玉砕」は良くて日本の「玉砕」は悪いというのだろうか？

戦後、潜水艦隊の生き残りであった井浦大佐は、ガタルカナル戦の補給に潜水艦が動員された時を回想して「日本の軍隊においても、外国の軍隊同様に、万策つき

たならば、名譽の降伏を許されることになつておればなあ」と幾度か、考えたという。苦衷は判らないでもないが、海軍が勝手に上げた戦場に陸軍を引き込んでおいてそれは無責任というものであらう。
生還を期さない片道攻撃も日本だけの専売ではない。米西戦争の時サンチャゴ湾の閉塞に向つたホブソン大尉とか、第二次大戦のときイタリア海軍のボルゲーゼ侯爵らが実施した人間魚雷攻撃等、事例はいくつもある。それらの勇士は祖国においてどのように語り継がれているか。日本のように貶め、蔑み、否定する形で伝えられている国が果たしてあるのだろうか。因みに日本の人間魚雷「回天」の黒木大尉の遺書は、イタリア海軍潜水学校の教科書に載せられたという。
今、靖国神社を巡つてさまざまな議論が為されているが、筆者は議論することすら非礼だと思つた。国事に倒れた先人を祭り、その偉功を偲ぶ、そこはかつて戦場に立つた人たちがお互いに約束しあつた集いの場でもある。戦時中の昭和十七年七月に発行された雑誌「新美術」の中で、彫刻家・本郷新氏がドイツの田舎の或る村外れに立つ記念碑の碑文を紹介している。
「この道を通つて四十人が西へ征つた。帰つて来た者は唯一人である。未だ帰らぬ三十八人のためにこの道しるべを樹つて置く」。

この道しるべこそが靖国神社である。

陸自中部方面航空隊 創立記念行事のご案内
一、日時 十月七日(日)午前十時から
二、場所 陸上自衛隊八尾駐屯地
三、行事 記念式典・展示など
四、その他 詳細は左記へお尋ね下さい
八尾市空港一丁目八十一番地
電話 0729-4915131

陸上自衛隊中部方面隊 創立記念行事のご案内
期日 十月二十二日(日)午前十時から
場所 陸上自衛隊伊丹駐屯地
行事 音楽隊演奏・展示
備考 詳細は左記へお問い合わせ下さい
陸上自衛隊中部方面隊司令部
電話 072-782-0001
内線 2338 (記念式典関係)

英霊の遺書を拝読して、その行間を埋め尽くした見えない文は「忠孝」の二字だと容易に拝察せられま

す。愚息が永遠の名譽に生

きたるなら、古い先短

親として、こが覚悟のし

どろどろと、遺書が言外に



この碑の南西200キロの海底に「大和」は眠る (枕崎市・平和祈念展望台)

に余る一

戦時における散華と果

報、平時における殉職と名

誉、このいずれもが生死を

越えて厳存する親子の紐帯

英霊の魂安らかに

妙見宗僧侶 小西 正純

この度の鎮魂の旅の後塵

に從う事によって百里基地

に奉職する愚息が一層いと

おしく思われて来ると共

に、わが残りの人生を、た



知覧記念館前



鹿屋市の特別攻撃隊戦没者慰霊塔前



海上自衛隊鹿屋基地、駐機中のP3Cの前

鹿屋・知覧鎮魂の旅

9月9・10日

たは、殉職自衛官一千七

百七十七柱の御霊に報恩す

る時世時節の到来がある時

には、是非各位の諸列に供

奉させて頂きたく願ひ上げ



万世飛行場跡へ向う車中

たは、殉職自衛官一千七

百七十七柱の御霊に報恩す

る時世時節の到来がある時

には、是非各位の諸列に供

奉させて頂きたく願ひ上げ



戦艦・大和の鎮魂牌へ献花する濱野団長

たは、殉職自衛官一千七

百七十七柱の御霊に報恩す

る時世時節の到来がある時

には、是非各位の諸列に供

奉させて頂きたく願ひ上げ



海上自衛隊鹿屋基地、駐機中のP3Cの前

たは、殉職自衛官一千七

百七十七柱の御霊に報恩す

る時世時節の到来がある時

には、是非各位の諸列に供

奉させて頂きたく願ひ上げ

編集後記

と、氏に論考はそれだけ優

れている証左であらう。今

津彦先生の高弟であり、

その博士を高橋会長に紹介

したのは六年程前になる。

故・高橋季義会長追悼

第2回 日本の詩情・熱血歌唱祭

平成19年3月11日(日曜日)

・開場 12:00(開演13:00~15:30)

・会場 兵庫県立芸術文化センター (大ホール)

〒663-8204
西宮市高松町2番22号
☎0798-68-0288
阪急電車・西宮北口下車3分
(梅田駅から特急で10分)

・演奏・
陸上自衛隊音楽隊
君が代・海ゆけば・抜刀隊・軍艦行進曲・出征兵士を送る歌・父よあなたは強かった・他
婦人部コーラス
茶摘み・夏は来ぬ・愛国の花・里の秋・他
男性ソロ
青葉の笛・児島高徳・アツツ島血戦勇士・他

第3回・歴史勉強会

中島サロンのご案内

故高橋会長が歴史を勉強するようにと5月の理事会で述べられました。そこで中島元相談役を塾長に、気楽に参加発言できる勉強会を発足させました。ご参加をお待ちしています。

期日 10月29日(日)
午前11時~14時
場所 錦城閣(中華料理)
地下鉄・京阪電車天満駅下車すぐ
申込み 2000円
会費 090-8160-0521
備考 中華料理と麦酒で昼食 (新川)

自衛隊広報紙

広告掲載企業募集

中部方面隊広報紙 やましろ
第10師団広報紙 金誠
第3師団広報紙 錦城
第13旅団広報紙 みつや

自衛隊「広報室」編集広報紙取扱

株式会社 若鳩

本社 〒570-0032大阪府守口市菊水通2-19-1菊水第二ビル
TEL(06)6993-0099
支社 〒530-0028大阪市北区万歳町4-12浪速ビル西館401-B号
TEL(06)6362-0888
FAX(06)6362-3591

死んでたまるか!!

田幸教授(琉球大)開発の特許商品!!
沖縄モズクと北海道産真昆布が2つの純粋フコイダンとダブルで配合!!
生活習慣病が気になる方に...

【フコイダンZ】150粒(25~50日分)25,000円
お試し用30粒入り2,000円と
お徳用350粒入り50,000円もあります。

Beauty Health Laboratory
ビー・エイチ・ラボ
〒553-0006 大阪市福島区吉野4-19-10
TEL(06)6462-5820 FAX(06)6462-5824
携帯・PC共通 http://bh-labo.net